

1. 活動報告（事務局 記）

- 5月30日（土）会員13名が参加し、稲作準備として、観察路の草刈り、観察路内の除去草、落ち葉の撤去および焼却の作業を実施しました。なお作業前には、田植えの段取りと記念イベント（通水式は8月1日、その他のイベントは11月28日に実施する）の件について協議を行いました。作業終了後、昼過ぎに原田会長が水車のテスト運転を行いました。初代の水車と比べ、少ない水量で軽快に回ります。

- 6月6日（土）午後4時より田植えの準備として、機械植え（田圃の、約1/2を植え付け）、仮設トイレ設営等の作業を行いました。参加したのは、会員11名と地元協力者2名の計13名です。

- 6月7日（日）稲作体験として田植えを実施しました。混雑を避けるため、前半は親子自然観察隊、後半は地元の子供たちが稲を植えました。植えた面積は例年の半分です（残りは機械植え）。観察隊は、本日が初めての活動日なので結隊式もおこないません。参加者は、親子自然観察隊（子20名、親20名）、二俣瀬子ども会（子17名、親13名）、二俣瀬小学校2名（校長、教頭）、会員21名、非会員1名でした。

- 6月20日（土）会員12名と観察隊の保護者1名（男性）が参加し、草刈り（ため池、湿地帯および観察路の周辺）、対岸を結ぶ丸木橋の設置、ため池流出部の補強の作業を実施しました。また作業実施前の集会で、水車起工式の段取りおよび参加者の範囲、ビオトープ維持管理業務について（当会と環境ネットワークおよび宇部市との関わり）、土手築造工事（水車回り）の外部委託承認の事項について協議しました。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎行事

- 6月28日（日）維持活動（草刈り）「27日が変更になりました」
- 7月5日（日）エコアップ（ため池イグサ・湿地帯スゲ間引き）
- 7月11日（土）維持活動（観察路・駐車場の草刈り）、稲作体験（親子自然観察隊）
- 7月25日（土）維持活動（草刈り・清瀬峡整備）

3. 来訪者の声

6月7日周南市四熊の「峯重アジサイ園」の峯重夫婦

〔新型コロナウイルスの問題で今年のアジサイ祭りが中止となり他所を訪ねて見る事にした。以前聞いて興味を持っていた里山ビオトープに行ってみようと来宇し、国道2号線近くを捜し何とか到着したが、この地域の瓜生野あたりで尋ねたところ“そんな所知らん”との返事であった、さらに“それならこの奥にそれらしいものが有るんじゃないかなろうか”と云われ、ビオトープとは反対側の宇部丸山ダムの方を教えてもらったが、いくら探してもビオトープにたどり着かなかった。〕

幸い以前峯重アジサイ園を訪れた会員に連絡が取れ無事ビオトープに到着した。原田会長がビオトープの現在までの概要等を説明対応され、自然の良さと共にそれを維持していく大変さも共感しました。

4. 会員の声 「 田植えと新型コロナウイルス 」(観察隊隊長 管 哲郎記)

新型コロナウイルス！今年ほど、大変な事件に巻き込まれ世の中が変わってしまうほどの試練が続くのに、ついてゆけないほどの思いをさせられたことはありませんでした。現在もまだまだ続いており、コロナウイルスの治療薬が開発されない限り、安心して生活できない状況が続くと思われまます。

その中で私たちはあえて田植えを実行いたしました。推進役の原田会長の決断と勇気には、頭が下がる思いです。幸いにも「3密」という事柄からは少し外れておりましたので、観察隊隊長としても同意しご協力差し上げました。この後無事に皆様が陽性反応にならないことをお祈りしておきます。

隊長個人のことでありますが、今年は宇部市より、「宇部市内の昆虫調査」を2年間で依頼され、2月よりフィールドに出ています。その折には全くマスクは着用していません。知り合いのお医者様や動物園の園長様(医学博士)などから屋外では紫外線、風などのおかげで3密にはならないので大丈夫と常に言われており、車に便乗、同乗するときには注意するようこのことを聞きながらフィールドに出ています。おかげさまでまだ大丈夫なようです。これからは暑い夏になり、益々マスク着用はしんどくなりますが、上記理由のようにフィールドでのマスク着用はいたしません、大丈夫と信じています。

然し、大勢の集まるスーパーマーケットなどに邪魔するときには、さすがにエチケットとしてマスクは必ず着用しています。これはやむを得ないこととおもいます。

現在ではウイルス騒ぎも小康状態です、このままであればまもなく他県への移動解除になるかもしれません。8月の川の探検、9月の昆虫採集と行事が続きます。皆様の協力をいただきながら、何とか行事を継続したいと考えておりますので、よろしくご理解いただき、ご協力ください。観察隊側としましても事故の無いように配慮し行いたいと思っております、皆様とまた楽しくフィールドで遊びたいですね！

5. 親子自然観察隊「田植え」 (管 哲郎 記)

今年は新型コロナウイルスが猛威を振るい、4月、5月と親子自然観察隊の行事を中止させられました。6月になりようやく田植えの行事を行うことができましたし、結隊式も同時に行うことができましたので、ほっと一息です。

街なかで、建物の中での行事はできませんでしたが、市街地から遠く離れ、普段人の密集することのないビオトープのフィールドでしたので、かろうじていろいろな対策を考慮し、田植えを行いました。二俣瀬子供会とは別々に田植えを行いました。一度に大勢の人が密集することのないようにとの配慮でした、ご理解いただきたいと思います。

インフルエンザのお薬が出来上がれば、この様なことはないと確信しています、しばらくの間はみんな我慢し、早く元の戻ることを祈りながら今年は進めてゆきたいと思っています。ご協力とご理解をお願いいたします。

親子自然観察隊は19家族30名の登録がなされました。新たに4家族が新規に入会され、今年もにぎやかになりましたが、新型コロナウイルスのおかげで、田植えには20名の隊員と20名の親御様が出席となりました、新型コロナウイルスの発生にもかかわらず思った以上の出席となったようです。

長時間の滞在は良くないということですので、今回は田植えの機械を入れ、半分近くを機械で植えておきました。おかげで親子自然観察隊、二俣瀬子供会ともども、いつもの半分以下の時間で田植えを済ませました。せっかくの田植えです、子供たちに田植えを経験させてあげたいという思いがあり、少しでも子供たちに植えさせてあげたいとのことでした。物足りなかつたお子達もいたでしょうが、今年はお断念してください。膝癒しもなくし、お菓子を配布させていただきました、ご了解ください。

無事、田植えを終え、スタッフ一同ほっとしているところ、ビオトープ会員や親子自然観察隊の隊員より患者が出ないことを祈りながら、今年の行事は進めてゆきます。



田植えの説明を行う原田会長、全員マスク着用でした。



観察隊による田植え

親子自然観察隊の感想

★溝邊義人

とても楽しかったです。今回は半分しか田植えができなかったけど、次回は全部したいと思いました。

★溝邊寛人

いつも習い事で参加できなかったのが、参加できて嬉しかったです。米の作り方がわかって勉強になりました。

★溝邊（母）

コロナ禍の中、いろんな方法で活動できるように考えてくださり、みんなで楽しく活動ができ感謝しています。ありがとうございました。

★藤井七海

この日をすごく楽しみにしていました。苗を植えるのはとっても楽しかったです。去年よりも上手に植えることができました。稲刈りも楽しみです。

★藤井恵美（母）

親子で楽しみにしていました。お天気にも恵まれて、久しぶりに外の空気にたくさん触れてリフレッシュできました！

★秋田（子）

楽しかった。

★秋田理沙（母）

うちの子どもたちは田植えを何回かしたことがあるので、ひたすら田植えをこなしている印象でした。以前田植えを経験させていただいたところでは、カエルなどの田んぼの生物を見ることができたので、生物を観察できたらよかったな、と思いました。コロナの不安がある中で、様々な対策を講じてくださり、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。色々なイベントが中止になっていたのが、このようなイベントが行われることで少しでも日常に戻れた気がしました。これからもよろしく願いいたします。

★木村亮介

普段できない体験だったので、昔の人の大変さが分かって、昔の人はすごいなと思った。田んぼに入ると沼みたいな感触がして、とても楽しかった。稲が育つのが楽しみだなと思った。

★中村みはる

久しぶりにビオトープに行けて、とても嬉しかったです。やっぱり自然の中は落ち着くなあー。去年は、学校の参観日のため、楽しみにしていた稲刈りが出来なかったのが、今年は、絶対に参加したいです。今から楽しみです。

6. ビオトープ関連：「山口県の昆虫たち」 (管 哲郎 記)

(52) ナミルリモンハナバチ *Thyreus decorus* (ミツバチ科)

秋になると花の咲く草地で盛んに吸蜜する姿が見られますが多くはありません。

13～15 mmほどのミツバチとほぼ同じくらいの大きさですが、体色が鮮やかなブルーと黒の縞模様が入っておりとてもきれいで目を引くハチです。本州～屋久島まで見られるようですが、「コシブトハナバチ」に寄生するとされています。秋になり池や水辺で多く咲くミゾソバやセンダングサなどの花で吸蜜する姿が見られますが、細かく動き回るので撮影するのにピント合わせが大変でした。

よく似た美しい色をした「オオセイボウ」がいますが、このハチも寄生バチで、スズバチの巣に寄生します。いろんな種類のハチがいますが、ハナバチ、ハバチ、キバチ、狩りバチ、寄生バチやアリの仲間などがおりますが、このハチの仲間は同じハチの仲間や他の昆虫の幼虫や体に卵を産み付け寄生して成長する寄生バチです。



美祿市美東町



鹿児島県 佐多岬



ナミルリモンハナバチ 秋吉台



オオセイボウ 下関市角島

引用・参考文献

- 田中義弘、2012. 狩蜂生態図鑑. 192pp. (株) 全国農村教育協会. 東京.
福田晴夫ほか、2005. 昆虫図鑑 採集と標本の作り方. pp. (株) 南方新社. 鹿児島.
藤丸篤夫、2014. ハチハンドブック. 104pp. (株) 文一総合出版. 東京.

7. 会よりの連絡事項

1) (3、来訪者の声より) の対策

ビオトープの影が非常に薄い事をまたまた痛感した。対応については、我々の責任で有り地域内外への広報活動を今後は頑張らなくてはならない。

案一 地域のコミュニティ総会時及び自治会連合会総会時に創設時の経緯を説明し地域全体に知れ渡るようにする。

- ◎ 自治会総会は既に終了した為、6月19日に開催されるコミュニティ総会で説明会を会長が行う。

案二 ビオトープ入口に市道や国道2号からも見え渡る案内看板を取り付ける事等を早急に実行する。

- ◎ 現在ビオトープ創設20周年イベントの一環としてビオトープ入口の市道のコンクリート擁壁に「ようこそ！里山ビオトープ二俣瀬」の看板を設置する。

案三 案内パンフレットは残り少なくまた内容が変わっている為、新しく作成改善を要するホームページ同様新しく作成する方向で行きたい。

8. 編集後記 (前田 歳朗 記)

5月は、トノサマガエルの卵を5塊も見つけることが出来ました。例年にないことです。しかし天敵となるウシガエルの卵も、6月に入り5塊見つかっています。数は同じですが、産む場所は違います。トノサマガエルの卵は水深の浅いヨケジ、ウシガエルの卵は水深が大きい止水池に産みます。トノサマガエルは、なぜ浅い場所に卵を産むのでしょうか。

トノサマガエルの卵は、水中で沈みます。卵が孵化するためには、水温がある程度高くなる必要があります。深い場所の水温は低いので、浅い場所に産まれなければならないのだと私は考えています。しかも周りに植物のない日当たりのよい場所です。しかし、このような場所で産まれたオタマジャクシには、様々な受難が待ち受けています。

最大の受難は、鳥による食害です。特に春から初夏にかけて飛来するサギは、オタマジャクシの天敵です。春に産まれたアカガエルのオタマジャクシは、こいつに食べられてしまいました。水位が不安定なこともオタマジャクシにとって住みにくいでしょう。干上がってしまえばオタマジャクシは死んでしまいます。このため、オタマジャクシの一部を捕まえて、蓮田や湿地帯に移しました。これが良い結果を生み出せば良いのですが。

一方、絶滅して欲しいウシガエルは、水位が不安定な浅い場所には卵を産みません。オタマジャクシから成体になるのに1年かかるためです。しかし卵は浮くため、深い場所でも構わないのです。利口なカエルです。絶滅させるため、卵を見つけしだい除去していますが、見逃していることもあると思います。しかし今年は例年に比べ少ない予感がします。ウシガエルがいなくなり、トノサマガエルの楽園になれば良いのですが。